

## 6 月 月 間 報 告 書



### ～ 第一回 「津田 & 西本対談」 ～



西本君

**津田**「論代とメンバーの対談形式でお送りする月間報告第一弾！

お相手は西本君ですね！ではでは早速、関マケメンバーがそろったわけですが、関マケを選んだ理由とメンバーの印象について聞かせてくれい！？」

**西本**「関マケを選んだ理由は、実務に近いコンテストに出場すること。学術的なことだけでなく実務的示唆を求められること。やな」

**津田**「俺も結構そこだわ。普段小野ゼミって学術的なゼミだから、マーケティングを実務的な方向でも活かしたいよね」

**西本**「あと、優秀な方たちがいっぱいでした。」

**津田**「テンプレ乙w」

**西本**「笑。でもやっぱり、すごいメンバーが集まっている。だからそれぞれの力が生かされれば、絶対にいい論文ができると思った。小野ゼミのブレンが集まっている感じで、ここでは自分も本気でやらな残っていけないと思ったね。」

**津田**「ほうほう、じゃあテーマ決めはどうだった？」

**西本**「日常で見聞きしていることをマーケティングに生かそうと思って、先輩にもお話を聞きに行ったりもしたよね。でもなかなかいざテーマを決めるとなると難しい。」

**津田**「そう！やっぱり「日常」って大事だよな！？マーケティングを考える際に常日頃から日常生活に疑問を持つことってすごい大事だと思うんよ。」

**西本**「日常を考えることで、実世界でも役に立つものができるよね。」

**津田**「知識があってこそ、日常生活に疑問を感じることができるよね～。だから知識を吸収することは大切なのかな。やっぱ知識を学ぶことから面白いテーマを考えていくことに繋がっていくんだと思う。先輩も言ってたけど、「勉強してない奴から面白いアイデアはでない」よね」

**西本**「その通りやと思う。いい芸術品を作るためには、まずは自分で芸術品を見て学ばなあかんからね。」

**津田**「要は何でも勉強なんやな～（関西弁を真似てみる）」

**西本**「なんか違う笑」

**津田**「では、最後に今後の関マケに対する抱負を！」

**西本**「さっきも言ったように、優秀なメンバーばかりやから、そのメンバーの役に立てるように、自分も全能力を捧げます。なので何でも言ってください！絶対いい論文作りたい。」

**津田**「おー。そのうえで俺は個人の能力が発揮されるように頑張るわ。それがリーダーの務めっしょ！？。」



津田君



西本君と津田君。実は2年の時からの知り合いwこれから頑張ろう！